

はじめに

今年の一橋祭研究テーマは「検証・国鉄改革」です。少し古い話題だと思われるかもしれませんが、十分すぎるほど今日的な話です。1987年(昭和62年)4月日のJR発足が余りにも大きな出来事でありましたし、昨年のJR東日本の株式上場もあったので、国鉄改革はすべてうまくいっていると考えるのも当然といえます。しかし国鉄改革によって誕生した会社はなにもJR東日本、東海、西日本といった株式上場できる体力を持った会社ばかりではなく、経営安定基金に頼らなければならない三島会社や、トラック輸送に押されている貨物会社もあります。そして国鉄改革の一番の鍵を握る存在が国鉄清算事業団です。この事業団は国鉄の負債をかなりの割合で受け継ぎ、バブル期に問題となった土地売却で返済していこうというものでしたが、順調には進んでいません。借金の返済がうまくいかなければ、現在国民負担となっている分(国民一人当たり12万円)が増加する恐れさえあります。

また我田引鉄に代表されるように、国鉄時代から問題となっていた政治家の介入も、依然現連立内閣での整備新幹線問題でくすぶり続けています。このような問題を改めない限り、国鉄改革は終わったとは言えないでしょう。

今回の研究で至らない点も多いと思います。ご意見・ご感想をお聞かせくだされば幸いです。

なお、本文中の敬称は略させていただきました。

1994年11月5日 代表者